

新規事業採択時評価結果（平成31年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 環境安全・防災課
担当課長名：野田 勝

事業の概要

事業名	地高ICアクセス道路 市道 茂平148号長瀬菅無線	事業区分	地方道	事業主体	岡山県 笠岡市
起終点	自：岡山県笠岡市茂平 至：岡山県笠岡市茂平	延長	0.34km		

事業概要
市道茂平148号長瀬菅無線は、地域高規格道路倉敷福山道路の一部で事業中である笠岡バイパス笠岡西IC(仮称)と県道井原福山港線を結ぶ延長約0.34kmの幹線道路である。
笠岡バイパスの整備と一体となり、渋滞緩和、物流支援等に大きく寄与する道路である。

事業の目的、必要性
笠岡バイパスの端末供用時は、4車線化して交通容量を確保することで、笠岡バイパスへの転換の最大化を図る。また、笠岡バイパスと一体となって笠岡市内の交通混雑を解消すると共に笠岡市の社会・経済活動の支援等を図るものである。
地域高規格道路倉敷福山道路供用時には、地域高規格道路と笠岡市、福山市臨海部の工業地帯を連絡するアクセス道路として機能する。

全体事業費	約9億円	計画交通量	34,100台/日
-------	------	-------	-----------



関係する地方公共団体等の意見
地元笠岡市長を会長とする国道2号玉島笠岡間整備推進協議会（笠岡市、倉敷市、浅口市、里庄町、及び各議会）から毎年早期整備を要望されている。

学識経験者等の第三者委員会の意見
笠岡市事前評価委員会から、本箇所の新規着手は妥当と答申されている。

事業採択の前提条件
費用対便益：便益が費用を大幅に上回っている

事業評価結果

費用便益分析	B/C	10.3	総費用：10億円 （事業費：9.7億円 維持管理費：0.2億円）	総便益：102億円 （走行時間短縮便益：96億円 走行経費減少便益：5億円 交通事故減少便益：1億円）	基準年：平成30年度
	感度分析の結果		交通量変動 B/C=11.2(交通量+10%)	B/C=9.1(交通量-10%)	
			事業費変動 B/C=9.3(事業費+10%)	B/C=11.4(事業費-10%)	
			事業期間変動 B/C=9.8(事業期間+20%)	B/C=10.7(事業期間-20%)	

事業の影響	評価項目	評価	根拠
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	○
事故対策		○	・本事業(4車線化)により、笠岡バイパス、玉島笠岡道路への交通転換を最大化することで、更なる国道2号等の死傷事故件数の減少が期待される。
歩行空間		○	・現道は歩道未整備のため、沿道工場や歩行者の安全性向上が期待される。
社会全体への影響	住民生活	○	・岡山県南生活圏中心都市(岡山市、倉敷市)へのアクセス性が向上し、交流・連携の促進が期待される。
	地域経済	◎	・笠岡バイパスと笠岡市、福山市臨海部の工業地帯を連絡することで、地域経済の活性化が期待される。
	災害	◎	・防災拠点笠岡港と第1次緊急輸送道路(国道2号)を連絡する第2次緊急輸送道路の強靱化に資する。
	環境	—	・注目すべき影響はない
事業実施環境	地域社会	○	・地域高規格道路と一体となって、広域ネットワークを形成する。
	事業実施環境	◎	・計画に対する地元同意取得済み。 ・地元笠岡市長を会長とする国道2号玉島笠岡間整備推進協議会（笠岡市、倉敷市、浅口市、里庄町、及び各議会）から毎年早期整備を要望されている。

採択の理由

事業主体である笠岡市が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が10.3と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。
また、交通渋滞の緩和、交通事故の抑制、笠岡市及び福山市臨海部の工業地帯へのアクセス向上が図られるなど、当該事業の整備の必要性、効果は高いものと判断される。
以上により、本事業を平成31年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。